

テーマ：「無原罪の場所からのヴィパッサナー」
ーキリスト教的な景色からの理解（見取り図）ー

2024 年 4 月 13 日 (土)

霊性センター せせらぎ（無原罪聖母修道院）

小暮康久, S. J.

【図 I】 I テサ 5: 23 にみる人間の三元論

『どうか、平和の神御自身が、あなたがたを全く聖なる者としてくださいますように。また、あなたがたの霊（プネウマ）も魂（プシュケー）も体（ソーマ）も何一つ欠けたところのないものとして守り、わたしたちの主イエス・キリストの来られるとき、非のうらどころのないものとしてくださいますように。』
(1 テサロニケ 5:23)

『神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。…神はお造りになったすべてのものを御覧になった見よ、それは極めて良かった。』
(創世記 1:26-31)

【図 II】 肉：自己中心性（エゴ）による罪（的外れ）

『主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」…人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりしなかつた。…女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。』」
(創世記 2:16-3:13)

- ・善悪の知識の木の実を食べるとは「何が善で何が悪かは、この私が決める、裁く」という現実の始まり。神から離れて自己を中心にしたときに、その自己から見えているのは「私にとっての善い、悪い」裁きの座、自力のみ
- ・聖書における罪とは、「的外れ」ということ。
 - 【旧約聖書ヘブライ語】ハター：元来の意味「的を外す」
 - アウオン：元来の意味「曲げる」ペサ：元来の意味「逸脱する」
 - 【新約聖書ギリシア語】ハマルティア
- ・罪(的外れ)は、肉：裁きの座（自己中心性）から出て、開けのない場で ens（存在者）に向かう。

【図Ⅲ】 キリスト esse の受肉による解放

『初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。…言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。…言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。』 (ヨハネ 1:1-14)

- ・宿られた：スケーノー「幕屋を張る」の意味。旧約時代の臨在の幕屋は外にある。今、神はわたしたちの内に幕屋を張られた。→キリストの受肉（恩寵・他力）
- ・キリストの受肉（恩寵・他力）によって、聖霊が肉：自己中心性：裁きの座にむかって吹いている。この聖霊の働き（他力）に、私が応える（自力）時、他力と自力が一つになる聖霊との協働（シュネルギア）による、変容がはじまる。
- ・変容→凧は、風（他力）に乗る（自力）時に運ばれる。
祈り→い・のり＝息（いき：他力）に乗る（のる：自力）
肉：自己中心性の「場」から、愛：アガペ：慈悲の「場」へ

『生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。』 (ガラテア 2:20)

- ・愛：アガペ：慈悲の「場」は天が開けている。esse 存在そのものへの開け。
開けているのでまっすぐ（ツェデク：義）が現成する「場」

『言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。』 (マタイ 5:20)

- ・つまり、肉：自己中心性の「場」から、愛：アガペ：慈悲の「場」へとは、
→「的外れ」（ハター：罪）から、「まっすぐ」（ツェデク：義）への変容
- ・マタイ福音書の鍵言葉である「義」（ディカイオシュネー）の実現としての救い
- ・創世記 15:6 の『アブラムは主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。』は 聖書における「信じる」ことと「義」との関係を示している。

ヘブライ語原文 **וַיִּשְׁתָּאֵלֶּיךָ** wehemin ba adonai (YHWH)を逐語訳すると、

「（彼は）自分自身を確かにした（立った）／～で（場所）／主（YHWH）」

つまり、「信じる」とは私が立っている「場所」に関係している。

「わたしが来たのは律法や預言者（*旧約聖書のこと）を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」 (マタイ 5:17)

【図Ⅳ】 霊的感覚と〈気づき〉の場

- ・（青い楕円形の場）でなければ、本来、識別、究明、瞑想、霊的同伴は出来ない。
→裁きの座（自己中心性）では瞑想は出来ない。故に、そこから離れた青い楕円形の場⇨愛：アガペ：慈悲の「場」へと向かうために、ヴィパッサナー瞑想が助けになる。

そして、ここが「無原罪の場所：アガペ：慈悲の「場」」